

ジャパン ハンドドリップ チャンピオンシップ 2026

JAPAN HAND DRIP CHAMPIONSHIP 2026

ルール規約



日本スペシャルティコーヒー協会
コーヒーブリューワーズ委員会作成
2026年2月13日更新

0.0 JHDC とは

「ジャパン ハンドドリップ チャンピオンシップ」(以下、JHDC)は、コーヒー専門店から各家庭まで、日本で最も親しまれている抽出方法「ハンドドリップ」に特化した競技会です。シンプルなルールでありながら、競技を勝ち抜くためにはコーヒーとハンドドリップ抽出に関する幅広い知識・技術・経験が求められます。本競技会では、各地区予選を通じて幅広い層からの参加を募り、多くの方々が「美味しいハンドドリップコーヒー」を淹れるための検証と工夫に取り組んでくれることを願っています。

本競技会を通じ、より多くの人々にコーヒーを「手で淹れる」ことの魅力を伝え、日本の「ハンドドリップコーヒー」の素晴らしさを世界に向けて発信していきたい、そんな願いを込めた競技会です。

1.0 参加条件

1.1 参加者

1.1.1 年齢

大会参加時点で 16 歳以上であること。ただし、18 歳未満の参加者は SCAJ ホームページに指定された期限までに誓約書を提出してください。

1.1.2 国籍

国籍は不問ですが、競技運営および審査はすべて日本語で行われるため、日本語での説明・指示を理解できる方に限りません。

1.1.3 費用

競技者は、本大会への参加に伴い発生するすべての費用を自身で負担してください。

JHDC は、競技者の費用を一切負担いたしません。

1.1.4 同一企業参加者数制限

1 社から参加できる人数は、全日程 3 名を上限とし、1 日(最大 32 名)につき 1 名までとします。

参加申込の際に所属企業の申告は必須です(業種関係なく)。

1.2 申込み

1.2.1 競技者登録フォーム

競技者は参加登録フォームの必要事項をすべて記入し、SCAJ ホームページより申込みをしてください。

1.2.2 申込期限

SCAJ ホームページに記載された申込期限を参照してください。

1.3 競技者からの質問

すべての競技者は、最新の JHDC ルール規約およびスコアシートの内容を十分に理解したうえで参加してください。

ルールやスコアシートの理解不足を理由とした例外対応や特別措置は行いません。JHDC に関するすべての関連書類は、SCAJ ホームページからダウンロードできます。ルールの解釈に関する個別の質問にはお答えできません。

しかし、事務的なお問い合わせがある場合は、競技会事務局へメールでご連絡ください。

1.4 規約

競技者は下記の規約をよく理解し承認した上で、競技者登録フォームを送信及び提出してください。注意: 本規約には、すべての競技者に課される責任、及び SCAJ を代表する者として JHDC 優勝者に求められる責任に関する記述が含まれています。参加年度の JHDC 大会開催日から翌年開催日までを期限とし、本規約が効力を持つものとします。

A. 競技者は以下のことを約束し、エントリーを行なってください。

- I. JHDC 及び SCAJ がプロモーション、セミナー活動に際して、競技者の氏名、画像、動画を使用することを許可すること。
 - II. JHDC 及び SCAJ が承認した団体(テレビ局、インターネットメディア、出版社等)が編集・放送・配信を行う場合、競技者が内容を確認し同意した場合に限り使用を許可すること。
 - III. 上記の使用に際して、写真、ビデオ、印刷物、インターネット、電子メディアその他を含め、いかなる請求もしないこと。
 - IV. JHDC 及び SCAJ の行う啓蒙活動を維持促進するために積極的に活動すること。
- B. 競技者は、本ルール規約に定める競技者行動規範をよく読み、また遵守すること。
 - C. JHDC 優勝者は、日本スペシャルティコーヒー協会 (SCAJ) を代表する者としての自覚を持ち行動すること。

1.5 コンフリクト(フリー競技)

1.5.1 ジャッジ

- A. JHDC 公認ジャッジは、JHDC 競技会においてコーチをしながらジャッジを行ってはなりません。登録されたジャッジが、何らかの立場(コーチ、サポーター、コンサルタントのいずれか)で競技者にコーチングやフィードバックを行った場合、競技会前にそのコンフリクトがあること申告しなければなりません。
- B. 競技会の開始、またはジャッジカリブレーション開始のいずれか早い時点から、競技終了までの間、ジャッジと競技者はいかなる形のコミュニケーションや協議も行うことはできません。競技中にこれに従わない場合、競技者は失格となり、ジャッジは競技のジャッジから外されます。
- C. JHDC 公認ジャッジは競技会(フリー競技)開始前にコンフリクトの申告をする必要があります。
 - ・競技者の指導者またはコーチである場合
 - ・競技者が同一の組織・団体・チームに所属している場合
 - ・競技者が家族関係または明らかに親しい個人的関係にある場合
 - ・競技者の評価に対して公平性を欠く恐れがあると判断される関係が存在する場合

2.0 大会ルール

- A. 本競技会での使用言語は日本語とします。
- B. 競技会は 2 種類の競技(ドリップ競技・フリー競技)で構成され、それぞれの競技内容に従いコーヒーを抽出します。予選はドリップ競技のみで、決勝はドリップ競技とフリー競技を組み合わせで行なわれます。
- C. 競技者オリエンテーションミーティングで行なわれる説明は、本ルール規約の内容と同等に扱われるものとします。
- D. 会場により設備や備品、温度計測やカップへの注ぎタイミング、審査員への提供時間等条件が変わることがあります。

2.1 予選(ドリップ競技)

2.1.1 競技概要

- A. 予選はドリップ競技のみで行なわれ、各日毎のトーナメント方式で行なわれます。
 - 4 名までを 1 グループ、4 グループまでを 1 ブロック(最大 16 名)としてトーナメントを行います(各予選日につき最大 2 ブロックのトーナメントを実施)。各グループ 1 回戦の上位 1 名が勝ち進み、最大 4 名によるブロック決勝戦を行います。ただし、予選会場の都合により、トーナメント構成を変更する場合があります。
- B. ブロック決勝戦の上位 1 名が後日行なわれる決勝大会へ進出します。
- C. 予選(ドリップ競技)の競技時間は 10 分です。ただし、1 回戦の競技時間前に 15 分のリハーサル時間が与えられます。(2 回戦以降、ブロック決勝ではリハーサルは行ないません。)
- D. 予選(ドリップ競技)では 10 分間の競技時間に、JHDC が提供するコーヒー豆を使用し、2 つのサーバーに量の異なる 2 回の個別の抽出を行います。
- E. 量の異なる 2 回の個別の抽出は、1 つを 150ml 以上 200ml 以下(抽出 A)で、1 つを 300ml 以上 400ml 以下(抽出 B)で抽出を行うことです。
- F. 1 人のヘッドジャッジと 2 人のセンサリージャッジが、競技エリアから視界の遮断された審査エリアで審査を行います。競技者は、2 つの抽出の均一性(質)と、抽出 B のコーヒーの味覚審査により評価されます。

- G. テクニカルジャッジが、抽出量の確認、衛生的かつ適切な器具の使用をしているか審査します。競技スペースの整理整頓ができていかどうかを確認します。また抽出されたコーヒーの温度計測も行います(60°C未満減点)

2.1.2 コーヒー豆と使用器具等

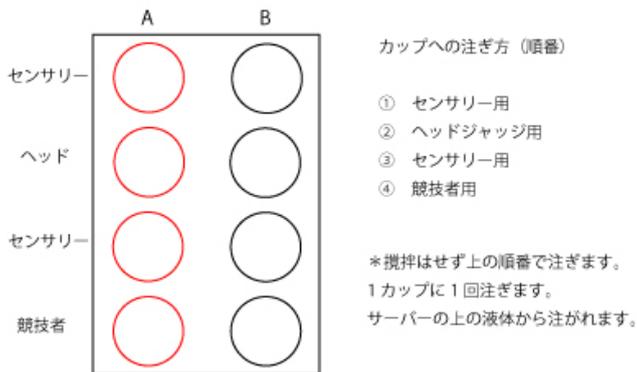
- A. 予選では、JHDC が大会当日に提供するシングルオリジンのコーヒー豆を使用します。提供されるコーヒー豆は各予選日により異なります。
- B. 競技に使用するコーヒー豆は、大会当日のオリエンテーションにおいて発表します。コーヒー豆のプロフィール(オリジン、焙煎度など)も同時に公表します。競技者は実際にコーヒー豆を確認することができます。
- C. コーヒー豆はリハーサル用、競技用として 200g 支給されます。競技終了時にすべて回収されます。また、抽出時のコーヒー豆の使用量は任意とし、挽き方も任意とします。ただし豆の追加支給は行ないません。
- D. 抽出器具(ドリッパー、フィルター): JHDC 公認指定製品として大会が用意する複数の器具の中から選択できます。ただしドリッパー2 つはサイズ違いか種類(材質)違いを選択してください。同じドリッパー(同型番)の使用はできません。
- E. サーバー: JHDC が用意する公認指定製品を使用します。サーバーを IH ヒーター等で加温することはできません。抽出後(サーバーからドリッパーを外した後)はサーバーには移動や、抽出液の攪拌目的以外で手を触れてはいけません。また、抽出後のサーバーには保温目的のいかなる行為も禁止します。なお、すべてのサーバーは競技前に計測され同じ重さに調整されたものが使用されます。(HARIO バリスタサーバー600)
- F. グライNDER: JHDC が用意する公認指定製品の中から 1 台を選択することができます。(複数台用意しますが、どのグラインダーを使用するか競技者が選択することはできません)。予選一回戦と二回戦以降で違うグラインダー(メーカーは同じでも違う機器)になることがあります。ダブルグランドについては不可の機種で行った場合失格となります。
- G. ドリップポット: プラチナスポンサー提供のドリップポットを競技者につき 1 つ競技テーブルに設置します。それ以外に JHDC が用意する公認指定製品の中から 1 つを選択して使用することができます。
- H. 温度計: JHDC が用意する温度計を使用します。ドリップポット内のお湯の温度を計ることに使用できます。(ThermoPro)
- I. 水: JHDC が用意する水を使用します。ドリップポット内の湯温を下げるために水を入れる場合は指定の水差し用ポットから注いでください。(会場により浄水器を使用できない場合水道水となります。水の数値は非公開です)
- J. デジタルスケール: JHDC が用意するスケール(競技者につき 2 つ)を使用します。スケールは g 表記となりますが、JHDC において 1ml は 1g として扱います。(HARIO V60 ドリップスケール)
- K. 攪拌用スプーン: JHDC が用意する攪拌用スプーンを使用します。用途はドリップポット内のお湯の攪拌、ドリッパー内のコーヒーの攪拌、抽出後のサーバー内のコーヒー液の攪拌のみとします。違う用途で使用した場合、規約違反として減点となります。(青芳コーヒーカップングスプーン)
- L. 競技者は JHDC から提供される器具一式(ドリッパー、フィルター、ドリップポット、グラインダー)について、必ず指定された期限までに各自の責任で申告してください。期限までに申請をしない場合は棄権とみなし大会への参加はできません。(申請がなくても競技会事務局から連絡することはありません。また登録料の返金も致しません)
- M. 競技テーブルには IH ヒーターを設置します。IH ヒーター上にはドリップポット以外の器具等を置くことはできません。また、IH ヒーターを移動させたり競技テーブルから外したりすることもできません。違反した場合、規約違反として減点となります。(HARIO ドリップケトル用 IH ヒーター)
- N. 給湯器: 公式スポンサーから提供されます。温度設定は各会場でされますのでご確認ください。その際お湯を大量に出したタイミングで温度が下がったりすることもあるため、お湯の温度管理は IH ヒーター上のポット内で行ってください。給湯器に表示されている設定温度はあくまで目安ですので出てきたお湯の温度と一致しない場合もあります。会場により給湯器が設置できない場合があります。
- O. タイマー: 時間の確認用に使用できます。予選会場には目視可能なタイマーがないため時間計測はこちらのタイマーをご利用ください。
- P. その他の機器、器具、アクセサリーについては、4.0 の項を参照してください。
- Q. 競技エリア内に競技者が持参した器具等を持ち込むことはできません。
- ※公認指定製品: JHDC 公式スポンサーから提供される製品を指します。公認指定製品の詳細に関しては、SCAJ ホームページで公開される最新情報を参照してください。

2.1.3 競技時間と競技の流れ

- A. 予選 1 回戦では、リハーサルに引き続き競技を行います。リハーサル時間は 15 分、競技時間は 10 分です。
- B. リハーサル開始前にドリッパーなどの貸し出し器具は運営スタッフにより準備されます。また、競技者はドリップポットにお湯を入れることができます(IH ヒーターの設定等はリハーサル開始後に行ってください)
- C. 司会者はすべての競技者がリハーサル準備が完了したことを確認した後、スタートの合図をします。競技者はスタートの合図の後、一斉にリハーサルを開始します。
- D. 競技者はリハーサル時間内に自由に試し抽出、味見をすることができます。
- E. 競技者はリハーサル終了の時点までに、各自の競技テーブル上のすべてのコーヒー抽出液を指定された場所に廃棄しなければなりません。抽出液が残っていた場合減点となります。
- F. リハーサル終了時点で違反があった場合、10 点の減点が課せられます。
- G. 競技者はリハーサル時間内に、豆を挽く(グラインド)以外のすべての競技の準備を行うことができます。ただし、競技で使用する豆を挽いた状態でリハーサルを終了した場合は失格となります。
- H. リハーサル終了後司会者の合図で一斉に競技を開始します。ドリップポットにお湯を入れる場合、リハーサル終了前か競技開始後に行ってください。
- I. 競技者は採点用に、2 つのサーバーにそれぞれ、量の異なる 2 回の個別の抽出を行います。1 つは 150ml 以上 200ml 以下(抽出 A)、1 つは 300ml 以上 400ml 以下(抽出 B)の抽出とします。使用する豆の量は任意です。
- J. 2 回の抽出を同時に行うか、順次行うかは競技者に委ねられます。1 つのサーバーに 2 回以上の抽出を行ったり、1 回の抽出を 2 つのサーバーに注ぎ分けたりすることはできません。抽出後のサーバー内にお湯を注ぐことはできません。また量の調整のために、一度抽出したコーヒーの一部を廃棄することもできません。1 回の抽出の最中にドリッパー内の粉を増減させることはできません。これらの行為が行なわれた場合は失格となります。ドリッパーからの最初の滴下は必ずサーバーに入れる必要があります(その際サーバーにお湯や水が残っていた場合は失格となります)。その後、抽出液がサーバー以外の場所に滴下した時点で一回の抽出の終了と見なします。
- K. JHDC が用意する水、攪拌用スプーン以外のものを、抽出時に粉に接触させた場合は失格となります。
- L. 抽出は必ず湯をコーヒー粉の上に注ぐようにしてください。意図的にコーヒー粉を避けるようにお湯を注いだ場合失格とします。(フィルターの外からお湯を注ぐ等)
- M. すべての抽出が終了したら、競技者は自身で提供台に 2 つのサーバーを運びます。2 つのサーバーを提供台に置いた時点で競技終了とします。競技時間 10 分を超えた場合は 20 点の減点が課せられます。競技時間が 11 分を超えた時点で失格となります。(提供台の位置、競技終了方法は各会場で違う場合があります)
- N. 大会スタッフは競技者が提供台に置いたサーバー内のコーヒーの温度を速やかに計測します。60℃未満の場合、サーバー 1 つにつき 20 点の減点が課せられます。
- O. 大会スタッフが 2 つのサーバーの計量を行ない、それぞれの抽出量が規定の量に満たない、または規定の量を超えている場合、サーバー 1 つにつき 20 点の減点が課せられます。
- P. 大会スタッフは計量後、2 つのサーバーから識別用番号が付されたカップにコーヒーを注ぎ分け、速やかにセンサリージャッジに提供します。各ジャッジにそれぞれのサーバーから注ぎ分けられた 2 種類のカップが提供されます。抽出 A は赤い番号のカップ、抽出 B は黒い番号のカップを使用します。(番号は同一)
- Q. センサリージャッジは、抽出 A 及び抽出 B の均一性(フレーバー、甘さ、質感)と、抽出 B のカップの味覚の評価を行います。味覚の評価項目は次の 4 つです。 * フレーバー * 甘さ * 質感 * バランス・総合
- R. ブロックのすべてのグループの予選 1 回戦が終了した後、各グループの上位 1 名によりブロック決勝戦(2 回戦以降)を行います。リハーサルは行ないません。競技時間は 10 分です。競技開始前にはドリップポットにお湯を入れることは可能ですがそれ以外の準備は一切できません。(コーヒー豆が残り少ない場合追加支給いたします)
- S. 競技内容は予選 1 回戦と同じです。競技の流れは上記 H~P に準じます。
- T. 競技者が観客席等からのサイン、指示を受け禁止事項、減点事項を回避できた場合でも、イベントマネージャーやテクニカルジャッジ、タイムキーパーにより発見された場合は失格となります。
- U. ドリッパーを手に持って抽出を行うことはできますが、抽出されたコーヒー液がすべてサーバー内に落ちるような位置で抽

出してください。もしドリッパーをサーバー上から横に外し、抽出液がテーブル等に垂れた状態で再度抽出を開始した場合は、J 項目での一部の抽出液の廃棄とみなし失格となります。

- V. 予選 1 回戦・ブロック決勝では競技終了後、自身で抽出したコーヒーを、確認のために試飲することができます。大会スタッフは各競技者の前に 2 つのカップを置きます。赤い番号のカップは抽出 A、黒い番号のカップは抽出 B です。
- W. また、競技終了後、自身の抽出した 2 つのカップの他に、抽出 B のサーバーが各競技者の前に置かれます。これは同じグループの他の競技者が試飲するために用意するものです。自身の抽出したコーヒーを飲んだ後は、他の競技者の抽出 B のコーヒーも積極的に試飲してください。
- X. サーバーから赤いカップ、黒いカップへ注ぐ際は下記図のように順番に注いでいきます。



2.2 決勝

2.2.1 競技概要(ドリップ競技)

- A. 決勝はドリップ競技とフリー競技の 2 つの競技で構成されます。
- B. ドリップ競技の概要は予選と同じです(2.1 参照)。
- C. 競技順は抽選により決定します。

2.2.2 競技概要(フリー競技)

- A. 競技者につき 5 分の準備時間と 11 分の競技時間が与えられます。
- B. JHDC が提供するシングルオリジンのコーヒー豆を使用し、プレゼンテーションを伴うコーヒー抽出を行います。競技者は、2 つのサーバーに量の異なる 2 回の個別の抽出を行ない、3 名のジャッジに各サーバーから 1 杯ずつ、計 6 杯のカップを提供します。
- C. 量の異なる 2 回の個別の抽出とは、1 つを 150ml 以上 200ml 以下で、1 つを 300ml 以上 400ml 以下で抽出を行うことです。
- D. 提供するコーヒーは、コーヒー豆と抽出用水以外のいかなる原料も添加しないドリップコーヒーとし、温度は 60°C 以上のホットコーヒーとします。
- E. 競技者は、3 名のセンサリージャッジ、1 名のテクニカルジャッジ、1 名のヘッドジャッジにより、プレゼンテーションと技術、味覚と均一性を評価されます。
- F. ドリップ競技とフリー競技の得点を合算して、総合得点により順位を決定します。

2.2.3 コーヒー豆と使用器具等(フリー競技)

- A. フリー競技では、JHDC が提供するシングルオリジンのコーヒー豆を使用します。
- B. JHDC は大会のおよそ一ヶ月前までに、フリー競技で使用するコーヒー豆を、練習用として各競技者に 1kg ずつ事前配布します。この時、コーヒー豆のプロフィール(オリジン、焙煎度など)も公表します。リハーサル及び決勝のフリー競技で実際に使用する豆は、別途、当日に配布されます。コーヒー豆、焙煎度、焙煎からの日数などは練習用の豆とほぼ同じにな

るよう準備されます。練習用として配布したコーヒー豆を競技に使用することはできません。また、大会スケジュールの関係で豆の配布が大会開催の1ヶ月未満となる場合もあります。

- C. 抽出器具(ドリッパー、フィルター): JHDC 公認指定製品として大会が用意する複数の器具から選択することができます。使用できるドリッパーは各競技者につき2つまでです。また、公式指定製品として大会が提供する抽出器具に改造等の加工を行うことはできません。なお、ドリップ競技とフリー競技で異なるドリッパーを選択することも可能です。
- D. サーバー: JHDC が用意する公認指定製品を使用します。サーバーをIHヒーター等で加温することはできません。抽出後のサーバーには保温目的のいかなる行為も禁止します。準備時間中にサーバーを湯煎することが可能です。(HARIO バリスタサーバー600)
- E. グライNDER: JHDC が用意する公認指定製品の中から1台を選択することができます。(どのグラインダーを使用するかを競技者が指定することができません)
- F. ドリッポット: プラチナスポンサー提供のドリッポットを競技者につき1つ競技テーブルに設置します。それ以外に JHDC が用意する公認指定製品の中から1つを選択して使用することができます。
- G. 攪拌用スプーン: JHDC が用意する攪拌用スプーンを使用します。用途はドリッポット内のお湯の攪拌、ドリッパー内のコーヒーの攪拌、抽出後のサーバー内のコーヒー液の攪拌のみとします。違う用途で使用した場合、規約違反として減点となります。(青芳コーヒーカップングスプーン)
- H. 水: JHDC が用意する水を使用します。ドリッポット内の湯温を下げるために水を入れる場合は指定の水差し用ポットから注いでください。(ジャッジへの水の提供は不要です)また、水の数値は非公開となります。
- I. 提供容器: 競技者は提供用の容器(カップ、グラス、ソーサー等)を自身で用意してください。提供容器の形状、材質に制限はありませんが、6つのカップは同じ形状でなければなりません。ただし、味覚の評価対象となるカップ(抽出B)ともう一方のカップ(抽出A)を識別できるようにしてください(色違い、模様違いのものを使用する、もしくはわかりやすい印をつけるなど)。識別はカップ単体で分かるようにする必要があります。トレイやソーサーで違いを出すだけでは不十分です。
- J. プレゼンテーションに必要なアクセサリ類を任意に競技エリアに持ち込むことができます。ただし、コーヒー豆と抽出用水以外、いかなる食品及び食品添加物も持ち込むことはできません。また、抽出に影響を及ぼす器具等も持ち込むことはできません(パウダーコントロール、ドリップシャワー等)違反した場合失格となります。
- K. 電気(コンセント)を使用するものは持ち込みができません。
- L. C~H 項目の器具等は大会が用意します。上記に記載のないものは持ち込みが可能です。

2.2.4 競技時間と競技の流れ(フリー競技)

- A. それぞれの競技者には、競技時間前に5分の準備時間が与えられます。
- B. 競技時間は11分です。競技者自身の合図(「始めます」)により、タイムキーパーがタイムの計測を開始します。
- C. 競技者はプレゼンテーションを行ないながら、2つのサーバーにそれぞれ1回、計2回の個別の抽出を行います。2回の抽出を同時に行うか、順次行うかは競技者に委ねられます。競技時間中であれば、一から抽出をしなおすことはできますが、1つのサーバーに連続して2回以上の抽出を行ったり、1回の抽出を2つのサーバーに注ぎ分けたりすることはできません。(カップに直接抽出を行うことはできません。)
- D. 抽出後のサーバー内にお湯を注ぐことはできません。また量の調整のために、一度抽出したコーヒーの一部を廃棄することもできません。違反した場合失格となります。
- E. 提供するドリンクは、コーヒー豆と抽出用水以外にいかなる原料も添加しないドリップコーヒーとします。また、温度は60℃以上のホットコーヒーとします。(計測はしません)
- F. 抽出は必ず湯をコーヒー粉の上に注ぐようにしてください。意図的にコーヒー粉を避けるようにお湯を注いだ場合失格とします。(フィルターの外からお湯を注ぐ等)
- G. 競技者は、2つのサーバーに抽出を終えたら、それぞれのサーバーから3杯ずつ、計6杯を提供容器に注ぎ分けてください。3名のジャッジそれぞれに、別々のサーバーから注ぎ分けられた2杯のコーヒーを提供してください。競技者はジャッジから見て、それぞれのサーバーから注ぎ分けられたことがはっきりと分かるようにサービスを行なってください。
- H. 競技者は、抽出及び提供容器への注ぎ分けを、マシンテーブルで行うことも、プレゼンテーションテーブルで行うこともできます。プレゼンテーションの方法は競技者に委ねられます。

- I. センサリージャッジはコーヒーを提供されたら速やかに審査を始めます。
(詳しい評価項目についてはスコアシートを参照のこと。)
- J. 競技者は、6 杯のコーヒーをすべて提供し、プレゼンテーションを終えた時点で、競技終了の合図(「終わります」)を自身で明確に行なってください。審査員テーブルにカップを置いた後に、プレゼンテーションを継続しても構いません。競技終了の合図の後に行なった説明は、一切評価の対象となりません。
- K. 準備時間中に競技で使用するコーヒー豆を挽くことはできません。違反した場合失格となります。
- L. テクニカルジャッジは、クリンリネス、器具機材の適切な使用、安全面の配慮、抽出量が適正か等を審査します。
(詳しい評価項目についてはスコアシート参照のこと)
- M. 競技時間が 11 分を超えた場合失格となります。

3.0 大会の流れ

- A. 競技スペースには番号が付けられます。
- B. それぞれの競技者には、開始時間と競技スペース番号が割り当てられます。
- C. それぞれの競技者には、下記のとおり競技時間が与えられます。

予選 1 回戦(ドリップ競技)

リハーサル:15 分間 / 競技時間:10 分間 / 片付時間:5 分間

予選ブロック決勝戦(ドリップ競技)

競技時間:10 分間 / 片付時間:5 分間

決勝(ドリップ競技)

リハーサル:15 分間 / 競技時間:10 分間 / 片付時間:5 分間

決勝(フリー競技)

準備時間:5 分間 / 競技時間:11 分間 / 片付時間:5 分間

- D. 予選ドリップ競技は 4 名までを 1 グループとし、グループごとに同時に競技を行います。
- E. 決勝ドリップ競技はトーナメントではありません。
- F. フリー競技は 1 名ずつ行なわれます。
- G. 予選大会のスコアは、決勝大会には持ち越されません。
- H. 予選終了後、決勝進出者 14 名(最大)が SCAJ ホームページにて発表されます。
- I. 発表日時はイベントスタッフから案内があります。

3.1 競技エリア概要

3.1.1 ドリップ競技(予選・決勝)

【競技エリア構成】

準備テーブル:

給湯器、グラインダー、水、トレイ、ゴミ箱、バケツ、ハケ、粉受け 2 個、計量スプーン

競技テーブル:

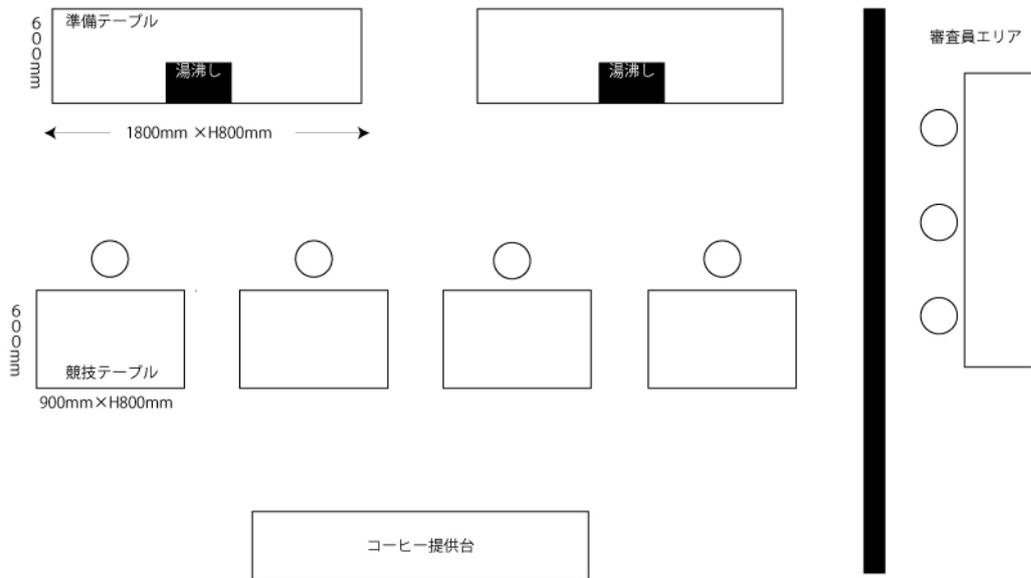
IH ヒーター、ドリップ台-任意、サーバー 2 個、スケール 2 個、フキン、ペーパータオル、タイマー、温度計
攪拌用スプーン、トレイ(ドリッパー用)、トレイ(マドラー温度計用)

コーヒー提供台(配膳係)、タイムキーパー、テクニカルジャッジ、司会者

【審査員エリア構成】

衝立、ヘッドジャッジ、センサリージャッジ、審査員テーブル

注意:会場により、上記のテーブルサイズ及び配置は変更となる場合があります。



1ステージ競技エリア配置図

3.1.2 フリー競技

【競技エリア構成】

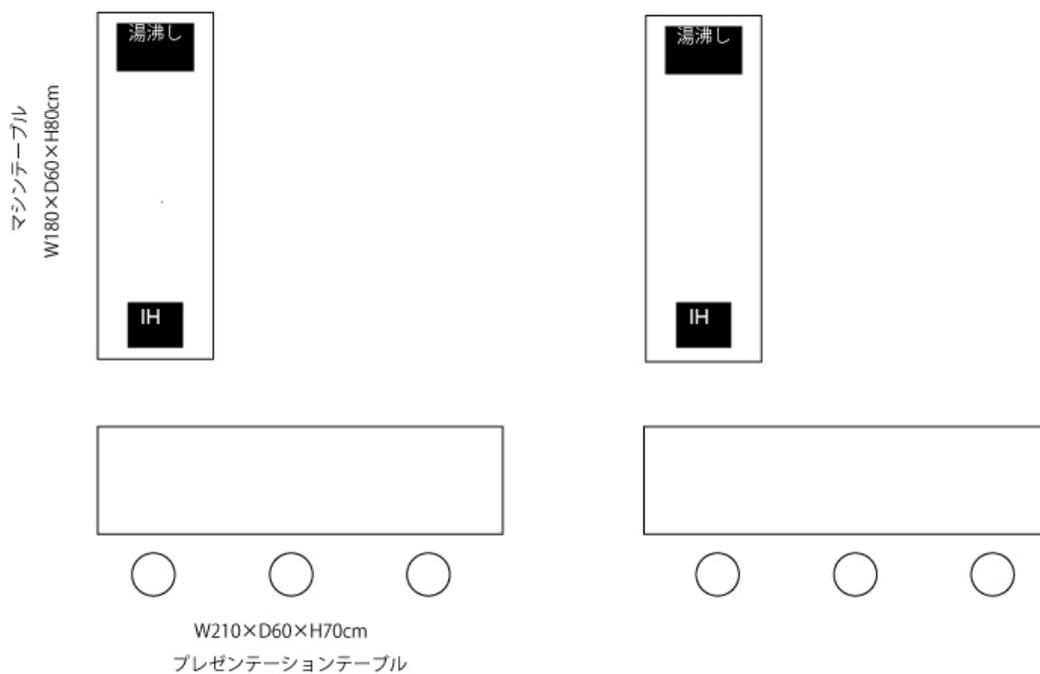
マシンテーブル:

給湯器、グラインダー、IHヒーター、水、ハケ、フキン、ペーパータオル、粉受け2個、計量スプーン
 温度計、トレイ、攪拌用スプーン(給湯器は中央に1台設置の場合もあります)、タイマー

プレゼンテーションテーブル:

スケール2個、サーバー2個、ドリップ台(任意)

センサリージャッジ、テクニカルジャッジ、ヘッドジャッジ、タイムキーパー、司会者



4.0 機器、器具、アクセサリ類

競技者は、JHDC より提供される JHDC 公式スポンサーの抽出器具とサーバーを使用します。それ以外の器具は各競技の規定に従います。

4.1 提供される設備品、供給品

各競技における設備品、供給品は 2.1.2 コーヒー豆と使用器具等(ドリップ競技)、2.2.3 コーヒー豆と使用器具等(フリー競技) 3.1 競技エリア概要をご確認ください。

4.2 持参することを推奨する設備品及び供給品(決勝フリー競技)

競技者は、自身のプレゼンテーションに必要なものをすべて持ち込んでください。

また、持ち込んだ品目は大会期間中、競技者自身の責任で管理してください。

JHDC ボランティアおよびイベントスタッフは、競技者準備室や競技エリアに残された品目について一切責任を負いません。

なお、持ち込み不可の器具等を持ち込んだ場合は失格となります。

5.0 競技者が競技時間の前にすべきこと

5.1 競技者オリエンテーションミーティング

大会開始前に、競技者オリエンテーションミーティングを行います。

すべての競技者は、このオリエンテーションに参加しなければなりません。

オリエンテーションでは、イベントマネージャーが大会の流れを説明し、スケジュール・競技エリア・バックヤードの実地説明を行います。競技者は、この場で質問や懸念事項を確認できます。

予選および決勝(ドリップ競技)では、大会指定コーヒー豆の詳細説明も行います。予選のオリエンテーションは前日、または当日の朝に実施します。大会が特別に認めた場合を除き、オリエンテーションを欠席した競技者は失格となります。

予選オリエンテーションは予選大会(各会場初日)前日に WEB で行われる場合もあります。その場合豆の情報についてのみ当日に発表されます。

5.2 リハーサル(決勝フリー競技)

リハーサルは 1 競技者につき 1 回 15 分が与えられます。このリハーサルでは決勝当日使用するコーヒー豆が渡されますので、時間内に自由に試し抽出を行ってください。また、与えられた時間内で準備から片付けまで行ってください。抽出確認の場所はイベントマネージャーより指示されます。コーヒー豆は抽出確認後スタッフが回収します。持ち帰ることはできません。リハーサルは前日または当日の朝に行われます。

5.3 時間の遵守

少なくとも競技開始の 30 分前には会場にいるようにしてください。自身の競技時間の 15 分前に現場にいない競技者は失格となります。

5.4 サポーター(決勝フリー競技)

事前に 1 名をサポーターとして登録可能です。サポーターは荷物の運搬を手伝うことができます。セットアップを手伝うことはできません。ただし競技終了後のインタビュー中のみ、サポーターはステーションに入って片付けを行うことができます。事前登録されたサポーター以外の方はバックヤードや競技エリアには立ち入りできません。違反した場合失格となります。

5.5 ステージ上に運ぶ備品・供給品(決勝フリー競技)

競技者が自身の備品を競技エリアに運ぶ時、運搬用コンテナを使用できます。

競技者は競技時間前に運搬用コンテナに自身の備品を積み込んでください。

競技エリア内での運搬用コンテナの置き場所についてはイベントマネージャーより説明があります。

5.6 決勝(フリー競技)競技時の音楽

競技者は自身の競技時間にかかる音楽を USB メモリに入れて持ち込みます。音楽には、冒涇、不敬な言葉が入ってはいけません。持参する USB メモリに自身の氏名を明記してください。競技者の責任において、大会前にイベントマネージャーもしくは音響映像スタッフに自身の USB メモリを渡してください。返却を希望する場合は、競技の後に自分で受け取ってください。返却されなかった USB メモリは大会後に処分されます。音楽データを持参しない場合、無音で行うか、大会が提供する音楽で行うかの選択が可能です。持ち込める音楽データは著作権フリーのものに限ります。

6.0 競技時間

6.1 司会からの紹介(決勝フリー競技)

司会者が競技者を紹介します。決勝(フリー競技)では、競技者はワイヤレスマイクの装着を求められます。競技時間中のみスイッチを入れてライブ状態(放送状態)になります。

6.2 準備時間(決勝フリー競技のみ)

6.2.1 準備時間の開始

競技者には準備時間が与えられます。準備時間の目的は、ステーションのセットアップと競技への準備を行うことです。競技者が控室から運搬用コンテナを使い、自身の競技に使う備品を運びます。運搬用コンテナをマシンテーブルに置くと、タイムキーパーが競技者に「用意はいいですか?」と尋ねます。競技者が「OK」の返事をする、その瞬間より準備時間がスタートします。準備時間内であれば忘れたものなど備品を取りに控え室に戻ることも可能です。準備時間開始前に運搬用コンテナから備品等を出してはいけません。

6.2.2 運搬用コンテナ

競技者は、準備時間中に自身で運搬用コンテナから備品等をおろしてください。運搬用コンテナは、競技中にはマシンテーブル上に置かないようにしてください。(指定の場所に置くこと)

注意: 準備時間が終わった時点で運搬用コンテナの上に品目が残っていた場合でも、競技者は運搬用コンテナから積荷をおろすことはできません。ただし競技開始後に積荷をおろすことは可能です。

(「7.2 決勝(フリー競技)でアクセサリを忘れた場合」を参照)

6.2.3 プレゼンテーションテーブル

競技者は、プレゼンテーションテーブルを準備時間中にセットアップすることができます。

また、競技時間中にセットしても構いません。

6.2.4 試し抽出

準備時間中、競技者は自由に試し抽出を行うことができます。

6.2.5 準備時間の終了

競技者は準備時間を超えて準備することはできません。

タイムキーパーは準備時間中、競技者へ残り時間を「3分、1分」とアナウンスします。

準備時間終了後、「タイム」とコールし、競技者へ一歩下がるよう指示します。

6.3 競技時間の開始

6.3.1 予選・決勝 ドリップ競技

司会者から競技開始の合図が出た後、競技者は速やかに競技を開始します。タイムキーパーは同時に、競技時間を計測するストップウォッチをスタートさせます。公式の競技時間は、タイムキーパーのストップウォッチで計測されます。

競技中、競技者はタイムキーパーへ残り時間を確認することはできません。

リハーサルでは、残り時間 5 分・3 分・1 分の時点でアナウンスします。

予選・決勝(ドリップ競技)では、残り時間 3 分・1 分の時点でアナウンスします。

タイムキーパーは、指定されたタイミングで必ずアナウンスを行います。

6.3.2 決勝 フリー競技

司会者が競技者へ競技が開始可能かどうかを尋ねます。司会者から競技開始の合図後、競技者は手を上げて「始めます」と開始の合図をします。同時にタイムキーパーは自身のストップウォッチをスタートさせます。公式の競技時間はタイムキーパーの時間で計られますので、競技エリアの表示は目安としてください。競技中、競技者は時間の経過を自身で把握する必要があります。競技者は競技中にタイムキーパーに残り時間を聞くことはできません。タイムキーパーは残り時間が「3 分、1 分」のときのみアナウンスをします。タイムキーパーは、いかなる時でも指定の時間のアナウンスを決められた時間に行います。アナウンスは、競技者が話をしている最中に行なわれる場合もあります。

6.4 タイムオーバーによるペナルティ(減点)

- A. 予選・決勝 ドリップ競技:10 分を超えた場合 20 点減点となります。11 分を超えた場合失格。
- B. 決勝 フリー競技:11 分を超えた場合失格となります。

6.5 コーチについて

準備時間、競技時間を通して外からのコーチングは許されません。コーチングが行なわれた場合は失格となります。

注意:コーチ、サポーター、友人、家族はステージに上がることはできません。

7.0 技術的な問題について

7.1 概要

- A. 競技時間中、競技者は下記について技術的な問題を抱える場合があります。
 - ・電気調理器等(電源、周辺機器等)
 - ・グラインダー
 - ・オーディオ・ビジュアル設備(競技者の音楽やマイク)この場合、競技者は手を上げ「テクニカルタイムアウト」とコールし、タイムキーパーを呼んでください。その際、タイムキーパーはいつテクニカルタイムアウトの宣言がされたのかを記録します。競技者はタイムキーパーがテクニカルタイムアウトの記録をとったかどうかについて確認してください。
- B. イベントマネージャーが技術的な問題があり容易に解消できると判断した場合、イベントマネージャーは競技者にその分の適切な時間を決定します。技術担当者がその問題を修正でき次第、競技者の競技時間は再開されます。
- C. もし技術問題がすぐに解決できない場合、イベントマネージャーは競技再開を待たせるかどうか、もしくは一旦競技を中止し再度割り当てた時間で競技を再開するかどうかを判断します。
- D. 競技を止めなければならない場合、競技者はイベントマネージャーと協議の上再度競技時間を調整することになります。
- E. 技術的な問題が競技者のミスによるものと判断された場合、イベントマネージャーは追加時間を競技者に与えない場合があります。その場合、経過した時間は保証されず、そのまま競技時間が再開されます。
- F. 大会用の設備機器に精通していないことはテクニカルタイムアウトの事由にはなりません。

7.2 決勝(フリー競技)でアクセサリーを忘れた場合

- A. 競技者が準備時間中に自身の設備機器やアクセサリーを忘れていた場合、ステージ外に忘れ物を取りに出ることができません。しかしこの間、準備時間のタイマーは停止されません。
- B. 競技者が競技中に自身の設備機器やアクセサリーを忘れていた場合、ヘッドジャッジへ忘れ物をステージ外に取りに出ることを申し出てください。しかしこの間、競技時間のタイマーは停止されません。
- C. ボランティアスタッフ、サポーター、チームメンバーや観客によって物を持ってきてもらうことは一切できません。

8.0 片付時間

競技者は競技終了後、ステーションの後片付けを始めてください。競技者は自身で持ち込んだすべての設備及び供給品を下げた後、ステーションをきれいに拭いてください。ジャッジは片付時間中の作業については評価しません。

9.0 競技終了後

9.1 JHDC 公式記録について

JHDC 公式記録係がすべての競技記録の集計及び機密保持の責任を負います

9.1.1 同点の場合

2名以上の競技者の得点が同点であった場合、優先順位の高い項目から比較し得点が高い競技者を上位とします。

(左から優先順位の高い項目)

均一性(質感)→均一性(甘さ)→均一性(フレーバー)→バランス総合→質感→甘さ→フレーバー

9.2 デブリーフィング(報告会)

予選競技者には競技会後、スコアシートを郵送します。予選のデブリーフィングは実施しません。

決勝競技者は、大会後、審査員と共に自身のスコアシートを見直すことができます。

- A. 競技者はスコアシートの元本を持ち帰ることはできません。
- B. JHDC の終了後、各競技者へ郵送によりスコアシート(複写)を送付します。
- C. デブリーフィングは競技者一人につき 10 分間とします。(フリー競技のみ)

10.0 競技者からの異議申し立てと嘆願要請

10.1 競技者に関する問題

10.1.1 異議申し立て(競技時間中)

競技者から JHDC 大会中に JHDC に関しての問題が提起され、もしくは異議申し立てがなされる場合、競技者はイベントマネージャーに連絡してください。イベントマネージャーはその場で解決できる問題かどうか、競技会事務局に対して書面にて嘆願する必要があるかどうかを検討します。もしイベントマネージャーがその場で解決できる問題だと判断した場合、関係各者にその方法が公平公正であるかどうかを確認します。競技者からの問題提起や異議申し立ては、その場でイベントマネージャーとヘッドジャッジで議論し、決断がなされ、イベントマネージャーより競技者へその決定事項が伝達されます。

10.1.2 異議申し立て(競技終了後)

競技者が、9.2 によるデブリーフィング(またはスコアシートの返送)で受け取ったスコアに対して異議を唱える場合、競技会事務局に E-mail で連絡してください。競技会事務局はその競技者を審査したジャッジと JHDC と協議を行います。その後、競技会事務局がその判断を競技者へお知らせします。

10.1.3 嘆願

競技者がその決定に同意できない場合は、競技会事務局へ書面による嘆願を行ってください。競技会事務局の決定は最終判断となります。競技会事務局への異議申し立て及び嘆願には下記の事項を必ず明記してください。

- 1) 競技者名
- 2) 日付
- 3) 明瞭簡潔な異議申立文章
- 4) 問い合わせの日時
- 5) 競技者からのコメント/解決案
- 6) 関係者

7) 競技者の情報(返信用)

上記情報が含まれていない書面による異議申し立て、嘆願は取り扱いません。競技者は当該紛争が起こってから、もしくは不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に競技会事務局へ E-mail で送付してください。

11.0 JHDC 公認ジャッジ

- A. 本ルール規約に定める JHDC ジャッジとしての行動規範は、すべての公認ジャッジが一貫し審査ができるように審査条件を定めます。
 - B. JHDC 公認ジャッジとは、ジャッジプログラムを受講し、試験に合格した者を言います。
 - C. JHDC 公認ジャッジのみがジャパン ハンドドリップ チャンピオンシップ (JHDC) で審査を行うことができます。
 - D. JHDC 公認ジャッジプログラムへの申し込みは以下のことを約束し、エントリーを行なってください。
-
- I. JHDC や SCAJ が、プロモーション、セミナー活動に際して、公認ジャッジの氏名、画像、動画を使用することを許可すること。
 - II. 上記の使用に際して、写真、ビデオ、印刷物、インターネット、その他電子メディアを含め、いかなる請求もしないこと。
 - III. JHDC 及び SCAJ の行う啓蒙活動を維持促進するために積極的に活動すること。
 - IV. 公認ジャッジとして審査を行った年の翌年は競技者として JHDC には出場しないこと。
 - V. コーヒー関係の仕事に 2 年以上従事していること(受講日より起算して 2 年以上継続して従事していること)

11.1 ジャッジとしての準備

すべての JHDC 公認ジャッジは、審査員プログラム・カリブレーション(調整のためのセッション)に参加しなければいけません。JHDC 公認ジャッジの審査員プログラム・カリブレーションへ参加する前に以下の事項に留意してください。

- A. JHDC 規約について完全に理解し、深い知識を所有していること。
- B. センサリージャッジのスコアシートについて完全に理解し、深い知識を所有していること。
- C. 競技会の流れや競技エリアの設定について完全に理解し、深い知識を所有していること。

11.2 JHDC 公認ジャッジとしての目標と目的

- A. 日本のハンドドリップコーヒーの技術、伝承を支持すること。
- B. スペシャルティコーヒーと、コーヒーの(液体として)カップの素晴らしさを伝えること。
- C. 評価が常に中立、公正公平な立場に立ち、一貫していること。
- D. JHDC の価値を認め、プロフェッショナル性の向上に努めること。
- E. スコアシートを通して競技者の成長の手助けとなること。

12.0 ジャッジの役割

12.1 ヘッドジャッジ(決勝フリー競技)

それぞれの競技者につき 1 名のヘッドジャッジがつけます。

- A. ヘッドジャッジは、競技時間中に審査の過程を俯瞰し、また発生した問題や競技に影響のあることを監督・処理します。
- B. ヘッドジャッジは、ジャッジが JHDC 基準に従って専門的に審査するように監督する責務を担います。
- C. ヘッドジャッジは、すべてのジャッジが明確にまた正確にすべての項目に得点を記載しているかを確認します。

12.2 センサリージャッジ

それぞれの競技者をテイスティングにより評価します。それぞれのセンサリージャッジは自分自身に提供された飲料のみを評価しスコアをつけます。また、決勝(フリー競技)では、センサリージャッジがプレゼンテーションの内容やプロフェッショナル性の評価も行います。センサリージャッジの評価項目については、JHDC センサリースコアシートを参照してください。

予選大会ではヘッドジャッジもセンサリースコアシートの記入を行います(合計 3 名)

12.3 テクニカルジャッジ

テクニカルジャッジはコーヒーの抽出量やタイムオーバー、クリンリネス、規約違反がないかなどをチェックします。また、決勝(フリー競技)では、競技中にプレスのカメラマン、オーディオスタッフやボランティア、他のジャッジなどを含め、いかなる妨害も行なわれないようにする責務を担います。また、時間オーバーの失格があるかを判断するために総競技時間を記録します。テクニカルジャッジの評価項目については、JHDC テクニカルスコアシートを参照してください。

13.0 評価項目

13.1 予選・決勝(ドリップ競技)の味覚評価

ドリップ競技では次の項目の評価を行います。

A フレーバー(口に含んだ時の風味、飲み込んだ後の風味、及びそれぞれの質)

フレーバーとは、コーヒーを口に含んでいる時、もしくは飲み込んだ後に感じられる風味のことで、味蕾から感じる味覚とは区別して判別します。(甘いフレーバーを感じたとしても甘いという感覚は味覚で判断すべきであって、フレーバーには甘さや酸味、苦味等の味覚を考慮しません。)この項目では風味の質や解りやすさ、複雑さを元に評価します。

B 甘さ(酸味と苦味の質とのバランスから感じる甘さ、後味の質、長さ)

コーヒーを口に含んだ時、または口から液体がなくなった時に感じる甘さのボリュームや質から感じる印象を評価します。酸味や苦味をやや強く感じたとしても、それを上回る甘さの感覚を感じられることができれば高い評価となります。酸味の質とは、絶対的な酸味の量が多くても少なくても、口に含んでから甘さがいつぐらいからどの程度感じられるものなのかを評価します。例えば酸味のボリュームがとても強くて、それがすぐに収束し、甘さの感覚を感じられるようになれば明るい酸味となり評価が高くなります。また弱い量の酸味でもいつまでも収束することがなく、甘さを感じづらい状態ではシャープ、サワー、ダーク等と表現され評価が低くなります。苦味に関しても甘さをサポートしている、または甘さを阻害していないと感じられる苦味の場合は良質な苦味となり、甘味・酸味・苦味のバランスが良いと判断される場合には高い評価になり得ます。

C 質感(量感を含めた複合的な触感)

質感とは口に含んだときの液体の舌触りから感じとられる印象を評価します。心地の良い粘性と滑らかさを感じられる場合は高い評価になります。量感とはドリップコーヒーならではの口に含んだ時から、飲み込んだ後の感覚までで、どの程度の満足感を得られる飲みごたえを感じられるかを評価します。心地の良いボディの強さや濃度は量感の評価を高めますが、質感が滑らかさを損なっている場合には必ずしも高い評価にはなりません。逆にややライトすぎるボディな場合でも質感の滑らかさがとても良いと感じられる場合は高い評価になることもあり得ます。

D バランス・総合(液体のフレーバー・テイスト・質感のバランスを含めた総合的な飲料体験)

このスコアは、個々のジャッジが主観を含めた総合的な評価を表します。抽出者の技術が液体にポジティブさをもたらしていると感じられる場合はより高い評価になります。またバランス・フレーバー・テイスト・質感といった様々な質や量がお互いを補完し合い良い飲料体験を高めているのかも評価に含めます。

E 均一性

A 抽出のコーヒーと B 抽出のコーヒーとの均一性をフレーバー、甘さ、質感の 3 項目で評価します。均一性に関してはどんなに良いコーヒーでも、悪いコーヒーでも、違う抽出量(A 抽出と B 抽出)のコーヒーをいかに同じ味に近づけられたかを評価します。

13.2 決勝(フリー競技センサリー)

A 味覚と均一性

決勝フリー競技におけるコーヒーの評価はドリップ競技と同じです。(13.1 項目)

B プレゼンテーションと技術

プレゼンテーションの構成の仕方、内容、聞き取りやすさ、分かりやすさを評価します。

プロフェッショナル性ではハンドドリップにおける抽出技術、ハンドドリップへの考察の深度、ワークフローを評価します

C 総合評価

プレゼンテーションと実際抽出されたコーヒーとの味覚の相関性、コーヒーへの情熱、接客スキルを総合的に評価します

13.3 評価基準(尺度)

技術的な評価基準

Yes/No 項目

予選・決勝(ドリップ競技)

・コーヒー抽出量や提供温度が規定値から外れていた場合:No=マイナス 20 点

センサリー評価基準

6 点項目(0-6 点、0.5 点きざみ)

・許容できない=0、許容はできる=1、普通=2、良い=3、とても良い=4、優秀=5、並外れている驚くべき=6

14.0 審査前のジャッジの禁止行為

- A. ジャッジは大会期間中選手と会話することを差し控えること。他の競技者や出席者が個人的なコーチングをしているとみなします。
- B. センサリージャッジは審査前に飲食をする場合、刺激の少ないもの、味覚の控えめなものを食すように心がけること。
- C. 審査前には喫煙をしないこと。
- D. 香りのあるデオドラント(防臭液)をつけないこと。
- E. 香水、コロソナや香りのあるローションなどをつけないこと。

14.1 競技大会中のジャッジの振る舞い

- A. ジャッジは、公平公正で誠実であること。
- B. ジャッジは、常に競技者に対して肯定的で丁寧であること。
- C. ジャッジは、競技者の言うことのみを聞き競技者に注目すること。

14.2 センサリージャッジに望むこと

- A. 競技者紹介のときには笑顔で歓迎すること。
- B. カップが提供されたらできるだけ評価を早く始めること。
- C. ジャッジは、競技者に対して心理的な力、強い影響力があるということと忘れないこと。
- D. 味覚審査中には、他のジャッジとコミュニケーションをとったり、目を合わせたり表情に表したりしないこと。
- E. ステージ上で他のセンサリージャッジと評価を共有しないこと。
- F. 味覚評価中は笑わないこと。
- G. 競技者や観客に否定的に解釈される行為をとらないこと。
- H. 自身に提供された飲料のテイastingをヘッドジャッジ以外の誰かに許してはいけないこと。
- I. ヘッドジャッジに対する議論、確認、質問は競技時間終了後バックヤードで行うこと。

14.3 スコアシート記入の際の注意事項

ジャッジは以下の事項に注意してください。

- A. ジャッジのフルネームがスコアシートの上部に明記されていること。
- B. スコアシートにはわかりやすい言葉遣いで明確に記入すること。
- C. ジャッジが判断上の誤りがあったり、スコアの変更をするときは、もとの数字にバツをつけるか、削除して正しいスコアとイ

ニシャルを明記すること。

D. ヘッドジャッジにスコアシートを渡す際にすべての項目を評価し、得点を記入してあるかを確認すること。

15.0 JHDC ジャッジによる不誠実な姿勢について

15.1 概要

審査中に JHDC スタッフにより、JHDC ジャッジの不誠実な行動が発覚、またはその可能性が予想されるような好ましくない事態が生じた場合、以下の事項が適用されます。

- A. イベントマネージャーは疑惑のある評価に関連する競技者のスコアを公認記録係から提出するように依頼します。
- B. イベントマネージャーは関係のあるジャッジを呼び、運営責任者とのミーティングによりこの状態を見極めます。
- C. もし、その不誠実な姿勢が深刻な場合には、イベントマネージャーは当該ジャッジを将来にわたり JHDC 認可の大会で審査できないようにする処分を裁定する権限を持ちます。

15.2 嘆願要請

もし JHDC ジャッジがその決定に対して同意しなかった場合、嘆願として競技会事務局へ書面にて提出できます。競技会事務局の決定は最終判断となります。競技会事務局への嘆願には下記の事項を必ず明記してください。

- 1) 氏名
- 2) 日付
- 3) 明瞭簡潔な異議申立文章
- 4) 問い合わせの日時
- 5) コメント／解決案
- 6) 返信用情報

上記情報が含まれていない書面による異議申し立て、嘆願は取り扱いません。ジャッジはデブリーフィングの後、もしくは不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に大会事務局へ E-mail で送付してください。

16.0 連絡先

16.1 SCAJ 事務局

協会ホームページ <https://scaj.org/>

16.2 競技会事務局(問い合わせ窓口)

E-mail: competition@scajconference.jp